

地域がん登録の標準化と精度向上に関する第3期中間調査結果Ⅰ： 目標の達成状況

柴田 亜希子* 松田 彩子 松田 智大 西本 寛
祖父江 友孝

1. はじめに

地域がん登録の標準化と精度向上に関する第3期中間調査の目的は、①地域がん登録の標準化と精度向上、運用に関する現状の把握をすること②第1期事前調査及び第2期事前調査、第3期事前調査と比較することで、第1期（平成16～18年度）及び第2期（平成19～21年度）、第3期前半（平成22～23年度）の各がん登録における標準化と精度向上への取組を評価し、平成25年度の第3次対がん10か年終了時点での目標達成のための基礎資料を得ること③本調査により得られた結果をもとに、第3期後半（平成24～25年度）の活動計画を検討することである。今回、平成24年3月に発行された第3期中間調査結果報告書より、目標の達成状況についてまとめた。

2. 方法

全国47都道府県がん対策事業担当部局（地域がん登録の実施・未実施にかかわらず調査票を送付）、広島市を対象に、平成23年9月1日～9月30日の間にアンケート調査を都道府県がん対策担当者 に依頼した。第3期中間の目標の達成状況および第3期中間と第1期、第2期、第3期前半期間を比較し検討した。

3. 結果

第3期中間の目標の達成状況が向上した項目は、標準化関連（モニタリング項目への対応、標準登録票項目の採用、多重がんの定義、標準データベースシステムの採用、死亡転写票上の多重がんの処理、等）、量的精度（3期事前→中間）（図1）、質的精度（原発部位不詳割合、形態コード、診断根拠、臨床進行度不詳割合）（図2）で、低下した項目は生存確認調査、報告書の作成、研究的利用であった。全体的には、第1期中（平成16～18年度）、第2期中（平成19年～21年度）、第3期前半期間中（平成22年度～23年度）に地域がん登録の標準化に関して、大きな前進がみられた。がん登録の量的精度（完全性）と質的精度（品質）に関しても、第1期から第2期の間は向上は認められなかったが、第2期～第3期中間にかけて向上していることが示された。

*国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部診療実態調査室
〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1

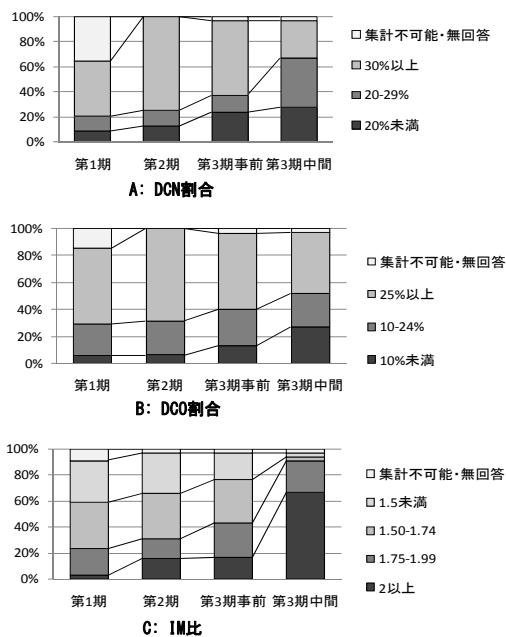


図 1. 登録の完全性

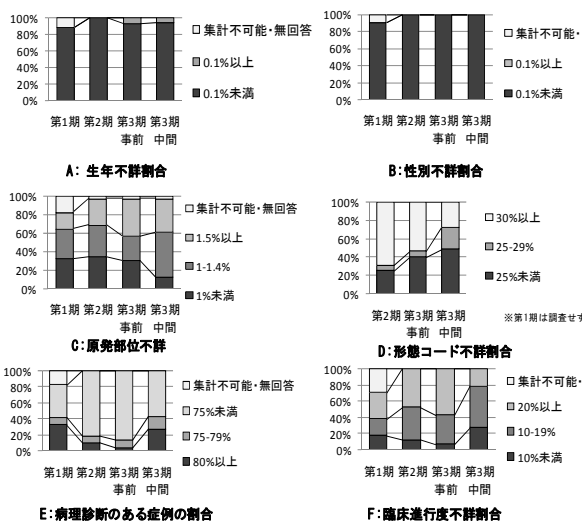


図 2. 登録の品質

4. 考察

今回、第2期～第3期中間にかけて向上した理由として、第2期事前調査で初めて全地域がん登録より2002年症例のがん罹患データ収集を試みて以来、MCIJとして2003年、2004年、2005年、2006年、2007年の罹患データの収集を全ての地域がん登録を対象に実施したこと、院内がん登録が広まったことなど複数の要因が考えられる。一方、達成状況が後進した項目については、今回、新規開始県も集計に含めたためと考える。しかしながら、本研究班が掲げている「地域がん登録の目標」を達成するにはまだ十分とはいえ、本調査の結果を精査し、第3期残りの2年間において実現可能な対策を講じ、さらに標準化と精度向上を目指すべきである。

謝辞

地域がん登録の標準化と精度向上に関する第3期中間調査ご協力いただいた全国47都道府県および広島市のがん対策事業担当部局の担当者 の皆様に謝意を表します。